

**課題名** 大学におけるエンゲージド・ラーニングに関する研究

**研究代表者名** 八 鍬 友 広 (生涯教育科学)  
**研究組織等** 工藤与志文 (教育心理学)  
小嶋 秀樹 (教育情報アセスメント)  
石井山竜平 (生涯教育科学)  
後藤 武俊 (教育政策科学)  
井本 佳宏 (教育政策科学)  
熊谷 龍一 (教育情報アセスメント)  
清水 禎文 (宮城学院女子大学教育学部)  
吉植 庄栄 (盛岡大学文学部)  
鈴木 学 (福島大学)

**研究の目的と方法**

大学におけるエンゲージド・ラーニングの展開に関する基礎的・理論的研究をおこなう。とくに、研究という事業を対象として、学生が当該事業に当事者として主体的に関与していく在り方に焦点をあてて研究をおこなう。具体的にはつぎのような事業をおこない、大学におけるエンゲージド・ラーニングの可能性について考察することを目的とする。

- ①エンゲージド・ラーニングに関する文献研究をふまえ、諸外国におけるエンゲージド・ラーニングに関する事例的研究をおこなう。
- ②エンゲージド・ラーニングを展開している大学から研究者を招聘し、情報交換をおこなうと同時に、講演会等を開催する。
- ③アジア地域における大学教育改革の動向についても、情報交換をおこない、シンポジウム等を開催する。

**研究経過**

研究代表者および研究分担者により「大学教育研究会」を立ち上げ、エンゲージド・ラーニングに関する文献の検討、および学生の研究活動に対するエンゲージメントを対象とした事例的検討をおこなった。また、エンゲージド・ラーニングの先進的な実践をおこなっているシェフィールド大学から講師を招聘し講演会を開催すると同時に、東アジアにおける諸大学における大学教育革新の取り組みに関する国際シンポジウムを開催した。具体的には以下のような取り組みをおこなった。

- ①4月～：大学教育研究会を開催し、本学における教職実践演習とエンゲージド・ラー

ニングの関連等について検討し、また今後の研究事業計画を立案した。

②6月～：本学研究科において本年度から導入した「エデュフェア・マインド」に関するデータ収集の経過およびその分析についての検討をおこなった。

③10月～：イギリスのシェフィールド大学より、副学長でありまた同大学のエンゲージド・ラーニングに深くかかわっているブレンダン・ストーン教授を招聘し、「大学におけるエンゲージド・ラーニングの可能性」と題する特別講演会を開催した。講演タイトルは下記の通りである。

**Brendan Stone: Engagement and Transformation in University Learning and Teaching**

④11月～：中国、台湾、韓国の諸大学から、講師を招聘し、「東アジアにおける大学教育の革新」と題する国際シンポジウムを開催した。シンポジウムのパネラーは下記の通りである。

有本昌弘教授（東北大学）、後藤武俊准教授（東北大学）、閔広芬教授（天津大学）、韓龍震教授（高麗大学校）、王建華教授（南京師範大学）、許添民教授（国立台湾師範大学）、陳榮政（国立政治大学）、劉幸講師（北京師範大学）、葉林准教授（杭州師範大学）

## 研究成果

大学におけるエンゲージド・ラーニングに関する概要およびいくつかの具体的な事例について検討をおこない、また実際にエンゲージド・ラーニングを実施している海外大学の教員による講演および情報交換会によって、より詳細な情報を得ることができた。

またエンゲージド・ラーニングおよび大学教育に関する以下のような学術会議を開催することができた。

シェフィールド大学からブレンダン・ストーン教授を招聘しておこなわれた特別講演会には、大学内外より90名近い参加者があり、エンゲージド・ラーニングの可能性およびその方法に関する活発な意見交換をおこなうことができた。

11月に開催された国際シンポジウムにおいては、中国、台湾、韓国の諸大学より、7名の講師を招聘し、東アジアの諸大学における大学教育に関する取り組みに関する意見交換をおこなうことができた。講師を含め、およそ50名の参加者があった。

本学研究科からの報告は、下記のとおりである。

**Masahiro Arimoto: Facing tasks of SDGs-Using innovative Learning environments (ILE) as a step to consider Engaged learning**

**Taketoshi Goto: Introducing Interdisciplinary Dialogue to the Required Subject for Graduate Students: Focusing on the Curriculum Design and the Evaluation**

以上の研究活動の結果、現在、何本かの論文が投稿中となっている。

### 今後の課題

これまでの研究成果をふまえ、今後は、具体的な大学教育の実践に関するより事例的な検討をおこなうことが必要となる。すでに、本学研究科が実施しているエデュフェア・マインドの授業や、自主ゼミなどに関するいくつかの事例的な検討がなされつつあるので、これらの研究をさらに促進し、その成果をまとめていくことが課題となる。このため、大学教育研究会を継続的に開催していくことが必要である。